



令和2年3月1日現在

総人口	12,675人
男	6,184人
女	6,491人
世帯数	5,347世帯
電話	47-0264
島内公民館 FAX	40-1264

集 これからの地域福祉事業 特 いま求められる仕組みづくり

昨年11月、島内地区地域づくりセンター・河西部地域包括支援センター主催により「島内地区地域ケア会議」が開催されました。当日は認知症をテーマに、講演や松本市・島内地区の取り組みなどについて紹介されました(関係者・住民等約100名参加)。

長瀬誠司地域包括支援センター長から、当日の様子や地域福祉事業の現状、ケア会議などについて伺いました。

今年度のケア会議の様子は？

認知症支援について「自分や家族、友人が認知症になっても、支える方法があることを一人でも多くの方に知ってもらいたい」との思いから、福島加奈医師(東城クリニック)の講演と、市・地区の取り組みについて紹介しました。



地区の取り組みを発表する長瀬氏

認知症への地区の取り組みは？

福島医師からは「認知症と疑われる場合は気軽に受診すること」「隠さずに専門家や周囲へ打ち明けた方が暮らしやすくなること」等について話があり、参加者も熱心に聞き入っていました。

島内では、行方不明になる可能性のある方を早期に見つけるため、写真付き連絡票を特定の人に渡して見守る「高齢者見守りネットワーク事業」に取り組んでいます。ただ、情報提供への抵抗感等から、取り組みが広がらないことが課題です。また福祉ひろばでも

地域福祉を取りまく現状は？

現在は、高齢者の約8割が最期を病院で迎えますが、5年後には年間170万人が亡くなる「多死時代」を迎えると言われています。しかし、今後病院を増やすことは見込めないとすれば、最期を迎える場所はどこになるのでしょうか。

一方、昨年の介護事業所の倒産件数は過去最高となり、今後は、自宅等でのサービスをスムーズに受けられないケースも増える予想されます。

このように、最期を迎える場所も定まらず、日常生活も不安定になる可能性が、身近なところま



▲認知症対応について話す福島氏

地域包括ケアシステムのイメージ



仕組みづくりとは？

今後とも高齢者が増加するなか、いつまでも自宅で安心して暮らしていけるように「医療と介護が連携して生活を支える」「地域や隣近所で、できることは支え合う」「できるだけ介護状態にならないよう予防する」の3つを柱に進めていく仕組みを、地域包括ケアシステムと言います。

仕組みづくりは、関係者や住民間で「当事者が何に困っているのか」を把握することから始まります。

また「一人の困った」は、隣近所や地域の「困った」と

いうケースもあります。そこで、この地域の実情に合ったような地域包括ケアを考えていく取り組みが、地域ケア会議です。

島内地区では、平成26年から現在まで「民生委員と医療・介護の連携や地域での見守り方」「地域の助け合い活動の掘り起こし」などをテーマに、10回のケア会議を開催しました。

今後の地域福祉事業へ向けて

ケア会議で今年度実施したアンケート結果では「終活」と「介護予防」への関心が高く、今後の事業へ活かしていきたいと思っています。

また、仕組みづくりの一つの柱である「地域や隣近所での支え合い」については、生活支援(例えば、ゴミ出しや雪かきなど)の面で、取り組みができればと考えています。

「昔はあった(やつでもあった)が、無くなり困っている」という声を耳にします。隣近所の「少しのついでで、助かった」の声がたくさん聞こえる地域になることが望まれます。

お困りの事のある方は、どんな事でもお気軽に地域包括支援センターまでお問い合わせください。(☎ 48-6361)

大型防災拠点竣工!!

— 松本市防災物資ターミナル —



2月13日、平瀬川東地籍に新築された「松本市防災物資ターミナル」の竣工式が執り行われました。

この施設は、災害時における、支援物資の受け入れや搬送の円滑化を主眼に建設されたもので、敷地面積約19000平方メートルの大型施設です。平時は松本市の災害用物資の半分を備蓄する倉庫となります。

内部は、倉庫のほか、会議室、事務室、休憩室、仮眠室等が設置されています。また、屋

外には防火水槽、非常用発電機のほか、消防団ポンプ操法レーンがあり、毎年開催される消防団の操法大会や救助訓練での活用が可能です。総じて災害時の危機管理重要拠点となるべく整備されています。

さらに、島内地区として重要なポイントとは、現地東側のJR篠ノ井線沿いに続く斜面において、土砂災害の危険性が差し迫った場合には、住民が一時避難場所として利用することが可能である点です。

これは一部の町会だけの問



題のように見えますが、もし当該災害が発生すれば、消防団を始め、地区全体にかかわる問題となることは間違いのないでしょう。

その時にこのような安定的な避難場所が確保されていることは、地域の防災、減災の観点からは歓迎すべきことと言えるでしょう。

ステーションアップメイシ



「ピンピンコロリ」で、人生最期の時まで自分の足で歩き、自分の力で生活できる身体をつくろう」を目標に、20年以上続く女性12名の公民館サークルです。

毎週月曜日の午前10時30

木彫仏像の魅力を堪能

2月17日から島内公民館ギャラリールピアッザにて「舎羅の会 仏像展」が開催されました。

地区内で初めてとなる展示会には、釈迦如来坐像や阿弥陀如来坐像など約50点が飾られ、来場した60代女性は「これだけ立派な作品を、間近で拝見できるのは幸せ。細部まで精巧な作りになっていて、



彫り手の気持ち伝わってくる」と話していました。

「舎羅の会」は、中澤達彦さん(日展会友)を講師に、地区在住者など6名が自宅や毎月2回の教室などで作品を制作しており、会代表の松本新平さん(東方)は「題材を決めてから長い時間をかけ、自分の手で彫っている時は無心になる。仏像そのものが持つ美しさや魅力を、日々感じている」と語ってくれました。

